

2021年に新規導入したアネクフェア亜属スイレンの開花について

藤井智展

はじめに

昼開性の熱帯性スイレンには、ブラキセラス亜属とアネクフェア亜属の2種類がある。一般に流通が見られるものはブラキセラス亜属の熱帯性スイレンで、世界の熱帯域に広く分布し、先の尖った花弁と香りのある花が特徴である。一方、アネクフェア亜属のスイレンは見かける機会が少なく、株が巨大なこと、大きく丸弁で水面から高く立ち上がる花を咲かせることなど観賞的にも魅力のある分類群である。

このたび2021年度に導入したアネクフェア亜属のスイレン5種類のうち3種類が開花したので報告する。

アネクフェア亜属の熱帯性スイレン

アネクフェア亜属の熱帯性スイレンは、オーストラリアを中心にオセアニア地域に約10種が分布している。その中で、日本で一般に手に入れられる種は、*Nymphaea gigantea* と *N. immutabilis* の2種であり、その変種や品種、交配種などがいくつか出回っているにすぎない。

亜属の特性として、株径2m程度と巨大な種が多く、水温や水深の変化に敏感で、休眠期と成長期がはっきりしていることが挙げられる。この特性から栽培に広く深い水環境が必要で、家庭栽培向けでないことが、この亜属の種が流通しない要因として考えられる。

栽培と管理

2021年7月に、表1に示す種を、芽が出た球根の状態です川花園より導入し、スイレン温室上池で栽培を行った。導入後は5号鉢に植え付け、栽培を開始した。栽培開始直後に *N. immutabilis* subsp. *immutabilis* の球根に腐りがあり、枯死した。

8月に本葉が増えてきたところで残りの4種を10号鉢相当の13Lプラバケツに植替えを行った。その後順調に育っていたが10月ごろから葉が小さくなり始め、11月には休眠した。

その後球根を掘り出し、再び植替えたところ *N. gigantea*、*N. gigantea* 'Albert-de-Lestang'、*N. immutabilis* 'Deepbule flower' の3種類が発芽し、再び生育を開始した。池の底の水が池の中ほど

よりも冷たく感じたため、水底より30cm程度高くなるようにブロック等で底上げして栽培を行った。一定の大きさに成長したことから2022年1月にバケツから下池の大鉢に植替えを行った。

表1 新規導入したアネクフェア亜属のスイレン

品種名	学名	花色
ギガンティア	<i>N. gigantea</i>	青
ギガンティア アルバート-デ-レスタング	<i>N. gigantea</i> 'Albert-de-Lestang'	白
ギガンティア ネオロゼア	<i>N. gigantea</i> 'Neorosea'	桃
イミュタビリス	<i>N. immutabilis</i> subsp. <i>immutabilis</i>	青、中央が白色
イミュタビリス (濃青色花)	<i>N. immutabilis</i> 'Deepbule flower'	濃青、中央が白色

開花

2022年に導入した5種類のうち3種類を開花させることができた。1月に *N. gigantea* 'Albert-de-Lestang' (写真1左上) が、3月に *N. immutabilis* 'Deepbule flower' (同右上) が、4月に *N. gigantea* (同左下) が開花した。

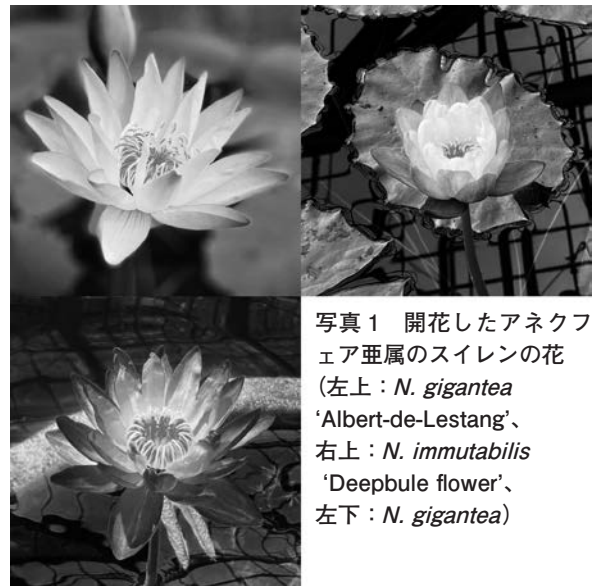


写真1 開花したアネクフェア亜属のスイレンの花
(左上: *N. gigantea* 'Albert-de-Lestang'、
右上: *N. immutabilis* 'Deepbule flower'、
左下: *N. gigantea*)

考察

今回の栽培において11月頃に休眠した理由として、プールの底に植込み容器を沈めて水深を確保していたため、気温の低下により、池底部の水温が下がったことが考えられる。

展望

アネクフェア亜属のスイレンは、既存のスイレンとは花姿も異なり、巨大で派手な姿を見せ、一般にはなかなか見る機会に乏しいため、休眠しないように管理し、年間を通して開花できるように栽培方法を工夫したい。また、開花が見られてない種類についても開花させたいと思う。